

(様式第4号)

交流・文化施設等整備検討委員会第3回委員会概要

1	会議名	交流・文化施設等整備検討委員会
2	日時	平成20年9月11日(木) 午後3時から5時まで
3	会場	上田駅前ビルパレオ2階会議室
4	出席者	日端委員長、龍野副委員長、美山委員、成沢委員、山浦委員、山崎委員、関口委員、石川委員、塚田委員、岡村委員、西澤委員、浦委員、竹花委員、山岸委員、小川委員、柄沢委員、田中委員、清住委員、桜井委員、竹内委員、宮下委員、宮本委員、 【欠席委員】土本委員、伊藤委員、森委員、
5	市側出席者	大沢政策企画局長、小菅教育次長、 伊藤交流・文化施設建設準備室長、若林係長、室賀係長、徳田主任、 宮川政策企画課長、清水都市計画課長、町田公園緑地政策幹、 中部文化振興課長、滝沢地域文化係長、
6	運営支援業務受託者	室賀建築設計事務所 室賀欣一氏
7	公開・非公開等の別	公開・一部公開・非公開
8	傍聴者0人	記者4人
9	会議概要作成年月日	平成20年9月12日

協議事項等

1	開会(大沢政策企画局長)
2	報告事項 委員長:アンケート調査について、前回まで皆さんから意見をいただき、最終的に私と事務局で預かり、内容を決めさせていただいた。すでに配布は終わっているが、内容を事務局から説明する。 事務局:会議の前に、これまで検討委員支援業務として一部民間委託を検討しており、その結果、室賀欣一建築設計事務所をお願いし、本日の会議から同席するので紹介する。 (1) 市民意向調査(アンケート)について 事務局:(説明・資料1)調査用紙の内容について、本委員会でこれまで2回協議し、最終的に委員長預かりとさせていただいた。その後委員長と事務局で、これまでの委員意見を踏まえ最終決定した。問1内「JT上田工場跡地への～」はこれまで別の設問であったが問1に含めた。問2の選択肢、「クラシック音楽」と「ポピュラー音楽」は別にし、自由記入欄を設けた。なお、この自由記入欄は問2だけでなく各項目に設けている。ホールの席数を問う設問は、市民の皆さんが答えるには適切でないとの委員意見が多かったことから削除。問3はこれまで一緒になっていた選択肢1と2を分け、問4での「小・中ホール」の選択肢はホールが持つ性格や機能上、選択肢としてふさわしくないとの意見から削除し、「文化資料の展示室」を追加、「レストラン・カフェ・売店」を一つの選択肢とした。問6は表現の修正と項目の整理を行い、問7はこれまででは問3であったが場所を移動した。それぞれご了承いただきたい。 委員長:特に意見は。 委員:(なし)
3	議事 (1) 上田市の文化行政について 事務局:(説明・資料2、3、4) 委員長:特に意見は。 委員:上田文化会館は自主事業がなく、丸子文化会館はあるという理由は何か。 事務局:上田文化会館は公民館を併設していることで、自主事業の開催に必要な企画スタッフではなく、一般事務職員が配置されていることから、現在は貸館中心で自主事業を行っていない。

委員長：上田市の文化行政の年間予算は概ねどれくらいか。整備には合併特例債を活用する予定であることや、完成後に管理運営費等が新たに生じることを考慮すれば、現在と完成後では予算規模が大きく異なるため、現状を把握しておくことは重要。

事務局：今は資料がないため改めてお示しする。

委員：建物を作ることよりも完成後の運営が重要。貸館だけではなく、どういう事業を展開していくか、例えば子ども対象の音楽・美術教室を開催する、または自主事業を積極的に行うなど、ある程度スタンスを明確にした方がよい。現在の見通しはどうか。

事務局：検討委員会の中でこれから議論されることかと思うが、現時点としては、丸子文化会館での自主事業の割合を基準にし、これをどの程度拡大していくか、委員の皆さんの意見をいただきながら検討してまいりたい。

委員：新たな活力を生むためにも、運営は委託で民間が行い、行政は監督のみを行うという形がよい。

委員長：ヨーロッパの美術館やホールなどのように、民間での運営に加え、ボランティアやNPOの協力が非常に重要。市民との一体感も生まれる。但し、施設自体に魅力がなければ成立しない。

委員：管理運営の議論はまだ早いと思うが、とにかく「使いやすさ」が重要。市から文化団体への支援や、使用料はどうなるのかという収支的な問題がある。芸術文化の事業は赤字になりやすいことから、気軽に利用できることで人が集まり、収支の向上にもつながる。

委員：施設を上田市の文化教育政策に位置づけることが重要。美術館を作るならば、例えば、美術館のバスが学校を訪れ、児童、生徒を美術館に連れて行き、学校の小さい美術室だけでなく美術館の大きなアトリエで専門的な授業を受ける、また学校の先生も研修が受けられるなどの、学校と美術館との連携が必要。創造館での「子どもは天才講座」が非常に好評であり、アンケートでも前向きな要望が多い。市の目標として「子育て・幼児教育日本一」を掲げ、新しい施設で子どものアトリエを設けて活動を行う、こういうことが文化教育政策ではないか。

委員：イギリスで見てきた例として、町がボランティア団体とうまく連携できず、財政状況により、緑地にビルを建設しなければならなくなったという例がある。一方で、ボランティア団体や民間企業と協力しあい、町に活力を与えている例もある。ここでは、多くの美術館や公園があるが、未来と子どもに向けたエリア、過去のを大切にすエリア、緑とやすらぎのエリア、とそれぞれのエリアにテーマを持たせ、テーマに賛同する企業から寄付を得たり、また企業が花を植えたりなど、実際の行動を伴った活動が行われている。

委員：ホールについて大・小のホールが必要。大ホールは、上田という都市が責務として持つべき規模や位置付けがある。ホールの生命である「音の質」についても考慮が必要。音楽村のホールこだまは非常に稼働率が高く、同規模ホールの整備要望を多く聞いている。緑や公園の重要度も高く、こうした環境から文化が育まれる。大ホールには1,700から1,800席必要。理由は3つ。第1に、上田市が東信地域でリーダーシップをとるには、佐久市で計画中の1,500席を上回る必要がある。ホールは芸術文化事業だけでなく、大規模のコンベンションや行政の大きな会議が考えられるが、上田で開催できなければ必然的に佐久が中心となる。第2に、市が催しを企画しても、プロモーターや音楽事務所が興行として成立しないと判断すれば実現しない。このとき判断材料となるのがホールの席数。16万人の、また、商業圏・文化圏を含めればさらに大きい上田市として、この規模が実現しなければ事業を企画できない。第3に、市内小中学校などの連合規模発表会が今の上田市ではできない。1,500席規模であれば可能とのことだが、これは最低限の数字ではないか。小ホールは、上田文化会館の500席を勘案すれば300席前後がよい。質が高く、かつ多目的なホールとする。大ホールが1,700規模となればなお、この規模が市民利用に最適で、稼働率の高いものとなる。

委員：環境へ配慮が重要であり、空調や照明に反映すべき。大賀ホールのホワイエは外との関係が心地良く、上田市の施設でも千曲川との連携が図れないか。欧米の重厚な建物も良いが、ここに合っているかは疑問。金沢21世紀美術館には一部無料で通過できる部分があり、入場料を払わなくてもアートを楽しめる。上田市でも、ショッピングセンター（アリオ）を出て、美術館の一部を通りながら堤防に出られるような流れがあればよい。最近では知的障害の持つ人々の芸術作品が国内外で注目されており、そういう展示もできればよい。

委員：限られたスペースと予算の中で、上田市ならではの個性ある、身の丈にあった施設が必要。前回、寄付を募る旨の意見が出ていたが、現在文化団体で行っている寄付募集では、わずかな金額でも苦勞をしている状況であり、現実的には難しい。水戸美術館はコンサートホール、劇場、

美術センターが一体となっている。文化フォーラム春日井は図書館、文芸館と立派な茶室があるほか、小野道風（ ）の記念館もあり、山本鼎記念館をこのような形で移転できれば理想。静岡市グランシップは県の施設であり非常に大きい。近接の静岡市民文化会館は、会議室、展示室、レストラン、喫茶室、売店などがあり参考になる。金沢市民芸術村の村長が「ナンバーワンよりオンリーワンであり、人が集まる場所にする」と話されていたが、とても大切なこと。（ 平安時代の代表的な能書家）

委員：個人的にも施設整備に関して大きな望みを持っているが、予算的な制約からも、あまり大きな夢を描いても、最終的には小さくなってしまふ恐れがある。施設は新上田市のシンボルとして、ポテンシャルを高める上で必要。文化芸術活動の拠点となるホール、地域の歴史や風土を継承、特に蚕都上田として全国に発信するための資料博物館、水と緑に囲まれた親水空間などを、限られた財源の中で焦点を絞り熟慮する。また経費節減は必須条件。JT 跡地の利活用は、立地に優れた土地としてまちづくりの中で活性化につながる大きなチャンス。市民憲章に掲げるような、ふさわしい整備をしなければならない。しかし、財政状況などを考えると、早急な判断ではなく、市民への情報公開と対話が必要で、時間をかけ賢明な行政判断と実行が重要。

委員：上田市には美術館がどうしても必要。山本鼎、石井鶴三らの活動により、上田は日本における近代美術教育の聖地であると言えるが、それが市民の意識の中に位置づいていない。ふさわしい施設もない。写真家ハリー・K・シゲタの作品や、市制 60 周年記念にブロンズ化した石井鶴三の作品も大半が眠ったままになっており、全国に公開する必要がある。東信地区の中核都市として美術館がないということは、都市としての品格、芸術文化水準がどの程度のものかを示すこととなる。この度、石井鶴三の関係資料約 20,000 点が松本市美術館に寄贈されることがほぼ決まった。本来これらは上田市に寄贈されるべきだが、受け止める場所がない。このことから、美術館がどうしても必要。

委員長：議題から少し広がって JT 跡地への意見などもあったが、議事録の整理などで残していき、今後の議論につなげていく。

事務局：先程質問のあった上田市文化行政の年間予算だが、平成 20 年度当初予算として、人件費を除いて約 4 億円。市民会館等の建物の維持管理は含まれている。

委員長：それでは、この議題についてはここで終わりとしたい。

(2) 文化施設の事例研究について

事務局：(説明・資料 5)

委員長：意見や質問は。

委員：いわき市の人口規模は。それと先程から委員の間で「よいものを作る」と発言があるが、「よいものには費用がかかる」という理解でよいか。「安くてもよいもの」もあるはず。

委員長：私見だが、例えば鎌倉美術館はホールとギャラリーが一体となっており、これから考える施設も、このように各施設を別棟ではなく一体化するなどの工夫をすれば予算内でかなりのものができるのではないか。

事務局：いわき市の人口は約 358,000 人。参考までに、松本市は約 223,000 人、茅野市は約 57,000 人、相模原市は約 686,000 人、鎌倉市は約 175,000 人。

委員長：人口で言えば鎌倉市に近いが、鎌倉市は首都圏の中でも比較的裕福な自治体であり、単純に人口規模だけでは比較できない部分がある。さて、時間も経過しているので議事を進めたい。議事の(3)、(4)、(5)について事務局から一括して説明する。

(3) 利用者団体懇談会について

事務局：(資料 6 の説明) 大勢の委員に出席いただき、今後の検討に生かしてほしい。

(4) 次回委員会の開催予定について

事務局：(資料 7 の説明)

(5) その他(議事録などの上田市ホームページへの掲載状況について)

事務局：(資料8の説明)

委員長：議事(3)、(4)、(5)について、一括して何か質問は。

委員：利用者団体懇談会について、委員はどのような立場で参加すればよいか。

事務局：多少は質疑への応答があると思うが、基本的には、市民や利用者団体の皆さんが日頃感じている点を「お聞きする」という立場でお願いしたい。

委員：参加者への説明は口頭のみか、それとも資料を配布するのか。

事務局：これまでの計画の歩みや今後の方向性を簡単にまとめ、委員長確認のうえで配布する。

委員：開催通知は発送済みとのことだが、どのような団体宛に発送したのか。また、学校教育部門との関連が今後重要となるが、そちらの方への発送状況はどうか。

事務局：文化芸術関係団体をはじめ、市内小・中・高等学校全校に通知した。100%とはいかないが、ある程度活動をされている団体と、教育機関に通知文を発送したということ。

委員長：利用者団体懇談会について、また質問などあれば事務局に申し出てほしいが、予定通り開催したい。議事(3)、(4)について何か質問は。

委員：(なし)

委員長：では議事としてはこれで終了としたい。

4 連絡事項

事務局：利用者団体懇談会の出欠について、お帰りの前に職員がお聞きするのでお願いしたい。

5 閉会(日端委員長、伊藤交流・文化施設建設準備室長)

- * 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。
- * 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。